

2016年度第2回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2016年(平成28年)9月10日(土曜日) 15:00~22:00

開催会場：長野県諏訪郡富士見町 プチペンション ジョナサン

議事録作成者：坂野 翔哉 (東京理科大学)

議題

1. [2016年度インカレミドル、リレーの日程変更の報告](#)
2. [学連発足35周年企画について](#)
3. [全日本大会と地区学連ロングセクションについて](#)
4. [事務局・私書箱について](#)
5. [目安箱について](#)
6. [一般クラス住み分けのガイドラインについて](#)
7. [東海インカレでの事故について](#)
8. [規約改正について](#)
9. [関東ロングセレクトラブルについて](#)
10. [後援大会申請](#)
11. [各部局活動報告](#)
12. [地区学連活動報告](#)
13. [次回幹事会について](#)

出席者（敬称略）

| 氏名 | 役職 | 学校名 |
|-------|----------|-----------|
| 木村 佳司 | 理事 | 山口大学卒 |
| 海老 成直 | 理事 | 中央大学卒 |
| 菅谷 裕志 | ICMR 運営者 | 名古屋大学卒 |
| 小泉 知貴 | 幹事長 | 慶應義塾大学 |
| 石山 良太 | 副幹事長 | 名古屋大学 |
| 成澤 春菜 | 会計 | フェリス女学院大学 |
| 築地 孝和 | 事業部長 | 神戸大学 |
| 坂野 翔哉 | 広報部長 | 東京理科大学 |
| 吉澤 佳奈 | 事務局長 | 日本女子大学 |
| 細 正隆 | 普及部長 | 東北大学 |
| 堀江 優貴 | 渉外部長 | 東北大学 |
| 田口 茂樹 | 会計監査 | 岩手大学 |
| 田中 基成 | 会計監査 | 筑波大学 |
| 渥美 駿 | 北東学連幹事長 | 福島大学 |
| 瀬川 出 | 関東学連幹事長 | 東京大学 |
| 高田 和樹 | 北信越学連幹事長 | 新潟大学 |
| 横田 智也 | 東海学連幹事長 | 名古屋大学 |

1. 2016 年度インカレミドル、リレーの日程変更の報告

要旨

インカレミドル・リレーの開催日程が 3 月 16(木曜日)～19 日(日曜日)に変更した。

これについての理由説明と変更周知のお願い。

| | |
|----|---|
| 菅谷 | メール等で連絡したように、開催時期の変更があった。これは渉外の結果、猟期が 3/15 までであったからである。 |
| 海老 | 例年より一週間遅い日程で、3 月の 2 週目から 3 週目の開催となりました。意見や質問はあるか。 |
| 小泉 | 卒業式のある大学はあるのか？学会などの都合は毎年どの日程でもどこかあるので仕方がない。 |
| 田中 | 宮城女子等で日程が被っていると聞く。 |
| 小泉 | 各自周知と調整をお願いしたい。 |
| 海老 | 猟期との関係で当初予定の開催が困難となった。今年度は例年 3 月末に開かれる全日本大会がないため、後ろにずらすことも可能であるという判断をした。今回の処置はあくまで例外であり、今後は例年通り 3 月の二週目で開催する。 |

2. 学連発足 35 周年企画について

要旨

日本学連は今年度の 12 月で発足 32 周年となる。3 年後の 35 周年記念事業の開催可否や内容について学生から意見を求めた。引き続き意見を求める。

| | |
|----|--|
| 小泉 | 前回幹事会では、秋インカレか春インカレと日程をかぶせて、お世話になった人を呼びたいという話だった。費用は 3 年程度の積立金と参加費の徴収を考えている。全日本と日程を合わせるの学生主体の団体であるため控えようと思ったが、後の議題にもあるセレクションとの関係ではあり得る話となった。 |
| 瀬川 | 募ったものの意見はなかった。時間がなかったこともある。 |
| 横田 | 関東と同じく意見は集まっていない。 |
| 築地 | 欠席した関西学連幹事長から意見を預かっているため代理で話す。35 周年記念大会を可能であれば中部地方で開催してほしい。景品も用意したら良いのではないかと意見があった。 |
| 小泉 | お世話になった方を招くというのとは違うが、運営したい人がいれば集めるか、どこかの学生大会に併設するなどできるかもしれない。 |
| 小泉 | 議論の方向が難しく、どう形にすればいいかわかっていない。現在が 32 周年で 3 年後なので今年に方向性が決まればいいと考えている。忘れられがちになる議題のため、今後も意見を募集していく。 |

3. 全日本大会と地区学連ロングセレクションについて

要旨

全日本大会プロデューサーの山川氏より、全日本大会とインカレロング選考会を共催することで、全日本大会の参加者を増加させ、全日本大会を権威ある協議会に発展させる案が掲載された。これについて日本学連がどのように対応できるか JOA 側の立場である木村氏とともに協議した。今回の幹事会での決定事項は、以下の通りとなった。

幹事会の方針として、JOA に対して

- ・共催のお願いは受容するが選考会としての採用は地区学連の基準による
 - ・公認大会や 20E の価値をこちらから JOA へ提案する
 - ・初年度は全日本選手権クラス出場権所持者のインカレロング選考会免除を拒否する
- 上記 3 点を返答する。

JOA から日本学連への、全日本大会への協力のお願について

- ・学生の代表者と JOA の定期的な協議を持つ。
- ・大会によるテレイン「矢板日新」「矢板山田」の利用
- ・「矢板日新」「矢板山田」のテレインクローズ（2017 年 6 月 18 日まで）

上記 3 点を認める。

資料 1 全日本オリエンテーリング大会プロデューサー就任について

資料 2 全日本オリエンテーリング大会プロデューサー就任について（追記 1）

資料 3 全日本大会（ロング）プロデューサー演説 その 3

資料 4 日本学生オリエンテーリング連盟へのお願い 全日本大会への協力について

| | |
|----|---|
| 小泉 | 全日本大会プロデューサーとしての山川さんから、全日本大会についての意見公開が 3 回あった。進め方として、幹事会での決議をどこへ持っていくか。まず、どういことをすべきなのか資料を読み解くことと幹事内での認識の共有。その後、地区学連などを通した学生の意見の収集や整理を行う。資料に関する疑問を潰していき、幹事会の方針を決めたい。全日本大会とインカレロング選考会共催が実現可能なら道筋と、規約作成などを考えていく。共催ができないのであればその理由や説明を行う。意見はいろいろあると思うが、幹事会としてなるべく議論は中立的に行いたい。ここまで意見はないか。 |
| 木村 | この件について私は JOA の当事者である。まず山川さんの資料を整理した。先に説明したい。（資料 4） |

| | |
|----|---|
| | <p>2年前の開催で全日本大会は継続不可能の結論をだした。そのために日本学連に対し、JOAからの協力をお願いがある。対象大会は2017年第43回全日本大会（栃木県）。2018年全日本大会（中津川）。</p> <p>内容は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学連とJOAの協議を持つこと ・テレインクローズを含む、学連所有テレインの使用 ・学生専用クラスをインカレロングの選考会として利用 ・全日本選手権参加選手の配慮のため、インカレロング選手権クラス出場権付与等の配慮 <p>背景は</p> <p>オリエンテーリングの競技人口は多くはなく、発展のためにはその過半数を占める学生の協力が必要不可欠であること。全日本大会は今まで地域持ち回りで開催してきたが、参加者数の少なさと負担の大きさから開催団体や開催地の立候補がなくなり、次の全日本大会がこのままでは開くことができない状態になってしまった。全日本大会はオリエンテーリング界を代表する大会であり、JOAは日本のオリエンテーリング界を統括するものである。これらの衰退は学生を含む日本のオリエンテーリング活動の衰退を意味すると考えている。</p> |
| 海老 | この資料について、山川さんと意見は共有しているか。つまり木村さんの資料が、山川さんの作成した資料の要約ということに山川さんの異論はないものと考えていいか。 |
| 木村 | 資料は山川さんに確認している。 |
| 海老 | 全日本大会は今後も6月に開催する方針になっているのか。 |
| 木村 | そうになっている。 |
| 海老 | 全日本大会はその選手権クラス選考会となる公認大会がそもそも少ない。さらに公認大会の開催地域も偏っているが、これがインカレロング選考会となることについて配慮の具体策は考えているのか。 |
| 木村 | 具体策はない。インカレロング選手権クラス出場者というのはインカレロング選考会で選出されるものだが、全日本大会に出場できる資格を持つのなら、その全日本大会最上位クラスに出るためにインカレロング選考会を免除して選手権クラス出場権を付与してほしい。 |
| 田中 | 2017年第43回全日本大会は関東地区（矢板）での開催となっている。2018年全日本大会は東海地区（中津川）の開催となっているが、つまり今後は学生が多い地域でしか全日本大会を開催できないのではないか。 |
| 木村 | 全日本大会は今後、競技者の多い地域で開催していきたいと考えている。少ない競技者を分散させしてしまうのではなく、競技者の大多数である学生が参加しやすい大会を目指す方針である。具体的には関西から栃木で開催していくことにな |

| | |
|----|--|
| | <p>と思う。ただ、あまりにも遠い地域で選考会となるのは無理があるので、全日本大会開催地の近隣学連が学連単位で全日本大会にエントリーし、インカレロング選考会に利用して欲しい。</p> |
| 小泉 | <p>山川さんの資料によると、選考会利用の強制のように述べていたが、いまの資料からだとニュアンスが随分違うように感じる。</p> |
| 木村 | <p>JOA から学連にそのような強制はできず、これは「強いお願い」である。JOA としては学連に対しお願いをする立場である。地区学連単位で選考会として使うか使わないかを決めることになると考えている。</p> |
| 田中 | <p>ちなみに 45 回全日本大会の開催の予定はあるのか。</p> |
| 木村 | <p>予定はついていない。開催地の立候補は募集している。そもそも 43 回大会は開催できないところだった。45 回大会以降の全日本大会は、ぜひとも学生主催の大会に乗っ取ってもらいたい。私たち現在の JOA を運営している世代は日本学連の初期幹事ということもあり、日本学連の気持はよく分かる。いまの日本の競技者はほとんど学連やインカレを通してオリエンテーリングに参加してきた層なので、インカレや学連に対して理解はある。個人的感想としては、学連が全日本大会に乗っ取ることに違和感はないと思う。</p> |
| 細 | <p>そもそも、どうすれば全日本大会が成功と言えるのか。</p> |
| 木村 | <p>人数は一つの指標にしたい。いま全日本大会の参加者は 500~600 人だが、これでは採算が取れていない。これが 900 人となれば十分と思える。これの他に、日本 1 位を決める大会として学生と社会人を全て含めた大会としたい。現在開催時期の 3 月は猟期であり、社会人も就職や異動で誰もが参加しにくい。さらに、大会の持続可能性が必要である。</p> |
| 小泉 | <p>木村さんの資料はとても分かりやすく、助かりました。懸念されていた選考会開催地の強制などは解決できると考えている。</p> |
| 木村 | <p>理解いただけてありがたいです。資料について補足すると、何度も言うように 43 回大会は開催されないところだった。全日本大会開催の方法について異論があっても、この方法の他に解決策がないことを説明していく。</p> |
| 小泉 | <p>背景は共有されたと思う。山川さんにとっては若い世代に全日本大会へ参加して欲しいという意図があるらしいこともわかった。細かい問題として、まず M/W 20E クラスをどうするか。資料の「追記 1」にはセクション兼 20E クラスとすることで解決できると書かれている。資料 1 にあるグレーゾーンとは何のことか。推薦や細かい規約のことを指しているのか。</p> |
| 木村 | <p>グレーゾーンとは改革によって生じた細かいずれなどによって不都合が生じる場所のことについてである。基本的に、切り捨てるのではなく拾い上げる方針としたい。</p> |
| 小泉 | <p>参加費については、学生は前年度並みとあるが、前年度の選考会のことか、それ</p> |

| | |
|----|---|
| | とも前年度の全日本大会のことか。 |
| 木村 | おそらく学生の要望に沿うために前年度選考会並の参加費ということだと思う。全日本大会は採算が取れていないものの、本来参加者の少なかった学生にも高い参加費を背負ってもらうことはなく、社会人以上からの参加費で賄おうと私は思う。 |
| 小泉 | 全日本とインカレを両立させるのはオリエンテーリング界にとっての負担が大きすぎるし、インカレを重要視する学生は全日本大会の注目が低い。山川さんは事業者としてJOAから全日本大会プロデューサーとなった以上、これを2年間という期日の中で解消したいということだと思う。 |
| 田中 | 全日本大会の選考会利用を「強いお願い」とする、とあったが、選考会が例えば矢板での開催なら関西学連からは来られないと思う。そうになると地区ごとに同日の選考会開催もありえる。これでは関西の学生は全日本大会へ参加できない。全日本大会の参加者は増えるのか。 |
| 木村 | 全日本大会をどういう使い方をするのかは地区学連の自由だと思う。例えば、セレクション2回開催のうちの1つを全日本大会に採用するのは可能である。そのようにできないか。 |
| 小泉 | 地区学連ではどのような意見が集まったか教えて欲しい。 |
| 横田 | 東海学連は、2年後が椈の湖(中津川)なら東海学連OBはどのように運営に参加するのか。東海学連で開催してきた地区インカレの開催はどうなるのか。地区インカレは自分たちで開催したいとの意見もあり、両方の連続開催は難しいと思う。また、すぐ全日本大会を東海学連OBが運営して欲しいと言われても無理がある。 |
| 木村 | 岐阜県協会にはある程度の運営能力があると考えている。矢板であれば関東ブロックオリエンテーリング協議会があり、関東全体から運営者を集めることができると考えている。 |
| 横田 | 2年後に現3年生がOBとなったときに、大規模な全日本大会を運営するのは難しいという意見だったが、いまは運営主体まで決定できない。 |
| 小泉 | 運営主体を決めるのは規約などの整備の段階になると思う。今は結論をだせないが、そういう意見があったとは認識が必要。 |
| 渥美 | 遠隔地で選考会を行うと参加できない。北東学連は2回インカレロング選考会を開催していて、例年は1回目を東大大会、2回目を学連単独で合宿して行っている。全日本大会と選考会が共催された場合には東大大会を全日本大会に置き換えることになると思うが、セレ開催時期の見通しがつかないのが懸念である。 |
| 小泉 | 先ほどの木村さんの案だと選考会の利用は強制されないものの、開催時期や場所が決まらないとセレクションが開催できない懸念につながるということか。 |
| 渥美 | 北東学連が全日本大会に選考会として参加するには関東が距離的な限界になる。 |

| | |
|----|---|
| 高田 | 北信越は加盟校から意見が集まっていない。事前に公開された文書の理解が難しいこともあると思う。 |
| 瀬川 | <p>関東ではいろんな意見が集まった。まず賛成派の意見は、学連は代替わりが激しく長期的目線がないと言えるが、山川さんの改革案は、短期的デメリットは大いにあるが学連にはない長期的ビジョンがある。4年生からは OBOG の負担は重視せず、学生主体で長期的ビジョンを考えて欲しいという意見もあった。山川さんの案はオリエンテーリング界全体としての全日本大会の充実化、地域クラブとの連携なども進むと考えられる。</p> <p>反対派の意見は、インカレロング選手権クラスの枠の数が不明になる、選考会として開かれるのなら学生にとっての全日本大会の意味を見失っているため全日本大会と言えない、すぐにはこの改革を実行できないため選考会として使うのは不透明すぎる、公認大会の仕組みが整っていない、開催時期が学連側で調整できないなど。インカレ選手権クラスの枠が関東学連の懸念としてかなり詳細に考えられた意見があった。</p> |
| 小泉 | <p>ほかにも関東で私が個人的に聞いた意見では、複数選考会の開催はデメリットとする意見もある。全日本 20E 権の獲得は比較的簡単なため、選考会の価値を下げる、また今回は情報公開時期があまりにも遅く情報共有が平等でなかったことへの反発もある。さらに、開催地が遠いと 1 年生が参加しにくく、先輩の勇姿を見せられないのはもったいないという意見もある。</p> <p>目安箱に入っていた意見には、地区学連が集まって選考会を行えばインカレの価値が下がる、選考の基準が曖昧になる。また、選考会通過の基準が地区学連によって異なるが、1つの大会でその基準の格差が見えるのは不満を感じる。全日本は演出がなく魅力がないなど大会の不満もあった。</p> |
| 田中 | 全日本 20E 権の問題は山川さんの「その 3」で解決する。 |
| 横田 | 今後、学生 OB 主体で全日本大会運営に参加しないといけないのか、その準備の猶予を持って欲しい。山川さんの情報公開が遅いためあまり議論はできなかった。 |
| 築地 | 関西学連の意見は、遠い地域はセレクションとして使いにくい。また、京大は毎年公認大会を開いているが運営者の自分たちは公認大会に出られない。参加者の上位が選考会免除となりインカレロング選手権クラスの出場権を得るのに、運営者はその機会を失うのは非常に不満があるし、不公平で制度が良くない。女子は完走さえすれば E 権を得られるような参加者の少ない公認大会もあり、インカレの出場権を付与する大会としては有利不利が大きい。山川さんの情報公開が遅いためあまり議論はできなかった。また、こちらでも全日本 20E 権の問題は出たが、20E との合併で解決するものと思う。 |
| 小泉 | 全体的に改革案がありえないというような根本を否定する意見は少なく、具体的 |

| | |
|----|---|
| | に開催となったときの障害が懸念されていたと考えられているように感じた。 |
| 瀬川 | 議論の時間も短く、個人的意見が多数だったため、実際に全体がどう考えているかはわからない。反対意見も十分にあったと思う。 |
| 小泉 | 確かにそうかもしれない。しかし山川さんの案では不透明だった部分も木村さんがまとめてくださった内容によると解決しそうであり、実現不可能な改革では無いと思う。地区学連にとって開催地が遠い場合についてなどの問題は、地区学連の判断で選考会に利用しないという判断をすることで解決する。また開催時期に関しても、もともとの選考会に利用されていた東大大会も開催時期の不透明さでは変わらないし、大多数の学連から参加してほしいという意図が全日本大会主催者にあるため、地区学連の要望によって調整可能に思える。今すぐは準備できないため1年は待つてほしいという意見が多いが、それは当然だし、可能だと思う。 |
| 田中 | インカレの価値や全日本大会の価値は山川さんの文章に対しての反発も見られるように思う。実際に改革する際には当然考慮されるべき問題で議論も必要と思うが、この意見によって改革が不可能というほどのものではない。 |
| 小泉 | 京大の例のように、公認大会を開催する側の不公平というのはどういった議論になるか。 |
| 木村 | 全日本大会 E 権の推薦制度をうまく利用できないか。規約はすぐには確認できないが、確か都道府県協会に全日本大会選手権クラス出場権を推薦する権利があったと思う。 |
| 瀬川 | 今調べたところ、JOA 公認大会エリートクラス出場資格 3 ページにある。確かにその通りだった。 |
| 木村 | この制度によって、公認大会主催者は所属都道府県協会に申請すれば全日本大会出場資格とインカレロング選考会免除を得られると思う。 |
| 坂野 | 推薦基準が都道府県協会によって異なることで、さらに不公平とならないか。インカレという学生主体の大会に対して、都道府県協会という外部の判断で選手権クラス参加資格が得られることになる。さらに推薦制度によってインカレロング選手権クラスの出場者が無制限に増加することはインカレの価値に関わる。 |
| 木村 | たしかに正当性が成立しない。 |
| 坂野 | 都道府県協会の規模も大小様々で、インカレ選手権クラス出場権の推薦という意味に関して、都道府県協会が統一した判断は作れないと思う。 |
| 木村 | 選手権クラス出場権付与は少人数、特例であり、大人数なら新たな規約作成が必要となると思う。 |
| 海老 | 推薦は外部の判断に任せず、技術委員会を経由するなど対応できると考えている。ただ、選手権クラス人数増加は規約改正が多くなり、短期間での改正は難しいし、インカレの価値に関して反発も大きいと思う。 |

| | |
|----|---|
| 坂野 | これまでも関東・北東・北信越合同選考会を開催しているが、全日本大会共催選考会との差は何か。共催したところで変化を望まない判断を地区学連がすれば全日本大会を選考会に選ぶことはなくなる。現状でうまく開催できている制度を変えてまで各地区学連が全日本大会を選考会に選ぶインセンティブは何か。 |
| 木村 | 全日本大会を合同選考会とするという認識でも私は良いと思う。全日本大会を選考会に選ぶメリットは、800 人規模の会計による大会と地図の品質向上が見込めることと考えて欲しい。 |
| 田中 | 全日本大会が開催され、持続可能性に協力するという意義に学連全体で賛同者を得るしかないのではないかと。 |
| 小泉 | たしかに、全日本大会を選考会に選ぶことは、現段階で学生にとって変革するほどのメリットはない。日本学連全体でオリエンテーリング界全体の危機認識を共有することが大切に感じる。 |
| 木村 | それは私たち JOA が日本学連とその加盟員に対して真摯に状況を説明するしかない。 |
| 坂野 | 山川さんが 800 人規模の大会を開催して、これまでのセレクションと比較して品質向上が期待できるかと言うと、分からない。山川さんの納期や品質は信頼しきれないところもあった。具体的な品質に確約があると良いと思う。 |
| 木村 | 大学 OB も運営人数やノウハウなど毎年変動があり、山川さんの開催する全日本大会の品質と比較しても問題はないと考えている。 |
| 瀬川 | JOA はいまどれくらいの危機なのか、脅しのような山川さんの文章に対して、危機感の具体性が必要である。それについての金額や JOA の意義について明確な説明が欲しい。 また、関東学連は就活などとの日程の確保調整がしにくい。現在の関東学連は 1 回のセレクションだが、日程調整の問題から 2 回方式に変更することになると思う。そうすると関東の全員が全日本大会に行くことにはならない。加盟員への説明や今後の地区学連の規約改正のためにも、全日本大会維持に必要な参加者数の算出や具体的な利益がどういった目標なのか説明が必要と思う。 |
| 木村 | 2 年前の福島(二本松)の全日本大会では 220 万円集めて、プロに払えたのは 70 万。リゾート地のため宿泊費が嵩んで 40 万円だったが、これを参加費に上乗せすることになってしまった。周辺イベントとして林間学校で地図を使って、やっと採算が取れた。つまり全日本大会単体では赤字であった。開催地の持ち回りで 3 年に 1 度は関東での開催となっているのだが、関東ブロック連絡協議会では過去 6 年で全日本開催団体の希望はない。広島県の開催では県協会がその後活動できなくなるほど資金難に陥った。福井県の開催では補助金を集めて何とか開催するもやはり赤字で全日本大会は続かない。 また、JOA は内閣府・日本体育協会・IOF に加盟した、公的に日本を代表する |

| | |
|----|---|
| | <p>オリエンテーリング団体組織である。日本学連はJOAに認められた団体であり、JOAは社団法人格を有している。オリエンテーリング界を代表する組織はJOAの他に存在しないし、存在できないという権利を持ち、これを中央競技団体という。日本学連がJOAに加盟する際には、JOAは日本学連を唯一の学生団体と認めた。これは日本学生オリエンテーリング連盟が日本において独占的に学生のオリエンテーリング活動を統括する権利を与えているという意味である。これによって学生の世界大会（ユニバーシアード・JWOC・WOC）派遣が認められている。JOAが解体するという事は日本においてオリエンテーリング活動が公的に存在できないことになる。それはなんとしても避けなければならない。</p> |
| 田中 | JOAの赤字は解消したのか。 |
| 木村 | 詳細を把握していないが、目標額を達成し赤字を解消したと考えられる。 |
| 小泉 | <p>これまでの意見をまとめ、議論の方向性を決めたい。この改革に対して反対の効力があると考えられるものは</p> <p>①セレクション・公認大会の複数開催でインカレの価値下落。 ②全日本大会への無理矢理な、消極的参加者が増えること。 ③公認大会の参加者が少ないときにインカレロング選手権クラス出場権を取りやすくなり、選考会の価値が下落する。これに関しては今後システムが整って公認大会が適切に開催されれば問題ないが、導入のときには懸念になる。</p> |
| 築地 | 全日本大会と選考会の共催に関連して公認大会の開催を増やすことは、JOAの財政問題回避を図っているのか。 |
| 木村 | 公認大会の利益は困窮会員（少人数から成る都道府県協会）に対する援助の原資としている。直接JOAの会計になる制度ではないためそのような意図はない。しかし公認大会の開催が増えることはオリエンテーリングの普及というJOAの目的に沿っている。 |
| 築地 | その説明は、京大大会を公認大会とすることに関して、運営者を選手権クラスに推薦してまで公認大会を増やすことと矛盾を感じる。 |
| 海老 | 現状でも京大大会運営者が全日本大会選手権クラスに出られる機会は減っているわけだが、これまで異論はなかった。この議論においてはインカレロング選手権クラスの選考会免除に関してのみ出場機会減少についての反対意見があると見られる。この問題の解消なら都道府県協会の推薦による出場権付与ではなく、技術委員会の推薦で対応可能と考えられる。 |
| 木村 | セレクションを開催する側が参加できないのに納得いかないのは理解できる。 |
| 築地 | もともと京大大会を公認大会にするのは集客のためだが、この不満によって公認大会としなくなるのはJOAにとって良くないのではないか。 |
| 木村 | そもそもどうして全日本選手権クラス出場権保有者のインカレロング選考会免除を考えているかという、全日本大会の選手権クラスに出場して欲しいためであ |

| | |
|----|---|
| | <p>る。全日本大会選手権クラスとインカレロング選考会クラスの差異や扱いを考え直すことで根本的に推薦問題に対応できないだろうか。公認大会をインカレ選考会の一部とするのは手段の一つであり、目的ではない。目的は全日本大会の集客を増やし、全日本大会を日本1位を決める大会とするという目標の達成である。</p> |
| 小泉 | <p>改革の反対意見となる意見はこれまで上がったものでいいか。開催地はセレクション強制参加ではなく学連の意向で解決、参加費の懸念は抑えていただくとい約束をする。選考会免除は全日本大会 21E クラス出場権所有者なら相当のレベルであり、問題はないと思う。</p> <p>全日本大会 20E クラスの扱い方、公認大会運営者の推薦制度、地区学連ごとの選考会採用のお願いについてはまだ議論の余地がある。</p> <p>全日本大会の価値や、大学生が選考会クラスに出場することに関して 20E クラスがジュニア日本一の価値を持つのかという問題についてはこれまで議論していなかったが、議論が必要と思う。また、改革をすぐに行うことについては時間が掛かるとの認識でいいか。</p> |
| 渥美 | <p>選考会共催により全日本大会 21A クラスにでる学生はいなくなるが、このクラスはどうなるのか。</p> |
| 小泉 | <p>学連加盟の学生は選考クラスに出るが、社会人や選考会利用の認定をしなかった地区学連の加盟員が参加することがありえる。</p> |
| 木村 | <p>少ないが、学連登録をしていない学生もいる。多くはないが過去には学連に加盟せず独自で活動している大学もあった。</p> |
| 小泉 | <p>反対意見などでなく本質的問題が集められたと思う。この JOA からの全日本大会協力のお願いは受け、詳細を詰めていくことになると思う。今後も意見を集める。</p> |
| 瀬川 | <p>全日本大会を選考会にどう使うかは早く決める必要がある。どのように決めていくか。</p> |
| 田中 | <p>大会主催者を集めることもあり告知の時間がない。JOA の言うこの体制を受け入れるかの判断を急ぐべき。</p> |
| 小泉 | <p>時間はないが、この場で決断するには情報が少なすぎるため、臨時幹事会が必要かと思う。関東のみ選考会兼全日本とするなどから考えるか。関東は人数規模があるため、全日本大会持続の延命にはなるとの考えから、山川さんとしては関東学連だけでも選考会の利用決定をしてほしいという考えだそう。</p> |
| 瀬川 | <p>関東から選考会利用決定を始めると言っても全日本大会選手権クラス出場権の扱いをどうするのか。学生の全日本大会選手権クラス出場について、少なくとも初年度は断る事になっても良いのか。改革の目玉である持続可能性はなくなり、参加人数を無理やり集めただけではないのか。そうなるとう結局どうしたいのかということになる。</p> |

| | |
|----|--|
| 小泉 | 現状として公認大会と全日本大会の制度に持続可能性が無いにも関わらず、それにインカレ選考会を突然共催することに問題が多いということか。 |
| 瀬川 | 次回から適用できるのかということ。近日には青森で公認大会が開催されるがこの場の議論によってはそちらに急遽日本中の学生参加者が集まることになる。 |
| 小泉 | 全日本大会選手権クラス出場権をインカレロング選手権クラス出場権とするのは保留し、すくなくとも来年度は採用しないということでもいいか。全日本大会選手権クラス出場権を持つ学生にはなるべく全日本大会で選手権クラスに出てほしいものの、インカレ選手権クラス選考会の免除は適用されない。そのため、全日本大会兼選考会となる。 |
| 坂野 | ただの共催となるのはもともとの持続可能な全日本大会としての改革の価値がない。これまでの議論は日本学連としてJOAの意見を想像していただけており、JOAと日本学連が合同でこれからのオリエンテーリング界の価値を話し合う必要を感じる。日本学連の幹事会だけでは雲をつかむような話で、JOAとしては全日本大会をどうしたいのか、全部日本学連で決めてほしいのか、全くわからない。 |
| 木村 | 全くその通りで、むしろ日本の競技者のほとんどを占める学生が日本の現状に合わせてJOAを改革して欲しいと考えている。 |
| 坂野 | 出場権・全日本大会・公認大会の価値や制度を学生主体で創りださなきゃいけないのか。 |
| 木村 | 現状の制度が破綻している以上、そうするしか方法がない。JOAの加盟員である学連の意見をJOA総会にて提案し、改革を行っていくことができる。全日本大会開催地の立候補もなく、競技者数の差も大きいので、JOA総会で日本学連の意見は通ると考えている。 |
| 田中 | 初年度はこれまでの議論に沿って改革を適用しても実験にならざるをえないと思う。 |
| 坂野 | 学連主体で出場権・全日本大会・公認大会の制度を考えなければ行けないレベルなのか。 |
| 木村 | 結局人数の大多数を占める学連のメリットがある形にしていくことが必要。他にも例えば18A,20A,21Aといったクラス分けも、もとはと言えばスウェーデンの徴兵制から採用されたものである。数十年前に全日本大会を日本で開催するにあたって前例を求めて北欧から輸入した制度に過ぎず、日本の現状に即した改革の必要を感じている |
| 小泉 | いま用意できる回答は、今後全日本大会や公認大会の制度がうまく働くことを期待して2年後から本格的に採用していくことになるのか。 |
| 坂野 | 結局のところ、公認大会の開催目的は全日本大会で、全日本大会開催のために公認大会があるという制度があるために、どちらの開催も身動きが取れなくなって |

| | |
|----|--|
| | いて制度の破綻を感じる。小手先の対応では来年になっても同様の議論があつて、結局のところこれまでのオリエンテリング界にあった問題は何も変わらないといったことが予想できる。 |
| 田中 | 公認大会が変わらないと全日本大会は変わらず、全日本大会が開けないと公認大会はない。つまり、いつまでも公認大会と全日本大会に価値がない。このまま共催するだけでは全日本選手権クラス出場権を持っている選手はインカレロング選手権クラスに出る。今後も負の連鎖が起り続け、登録費や参加費の値上げ、価値低下によってコントローラ資格が取りにくいために公認大会が開催できないなどの問題も起こる。 |
| 坂野 | 全日本大会のメリットを創出し、それによる公認大会開催や参加のメリットもつくり、公認大会を開催しやすくしなければ、もとの改革の意義がないという話になる。しかもそれを全て日本学連が考えないといけないのか。 |
| 小泉 | かなり途方もない話になってしまった。しかしその通りと思う。 |
| 田中 | コントローラがいないと開催できない公認大会、そのコントローラについても資格を取る機会もメリットもない。全日本大会参加費も値上げしている。これを緩和していくしか無いと思う。 |
| 坂野 | 公認大会にメリットがないから全日本大会が開催できず、全日本大会が開催できないから公認大会の価値や意義がなくなるという悪循環が現状。これを断ち切るのが改革の目玉で、学連加盟員を全日本大会に参加してもらうというのは手段にすぎないのではないか。全日本大会に関するすべての構造のスクラップ・アンド・ビルドを学生がやれというのが山川さんや JOA の真意ということなのか。 |
| 瀬川 | 今回の改革案のうち全日本大会と選考会共催を認めて、全日本選手権クラス出場権所有者のインカレロング選考会免除の制度を拒否することは、公認大会や全日本大会の改善案作成を前提として、この案を拒否するということなのか。 |
| 小泉 | 幹事会の方針としては、 ①共催の願いは受容するが選考会としての採用は地区学連の基準による ②公認大会や 20E の価値をこちらから JOA へ提案する ③初年度は全日本選手権クラス出場権所持者のインカレロング選考会免除を拒否する という回答でいいか。 |
| 瀬川 | この回答で JOA は納得できるものなのか。 |
| 木村 | 学連が全日本大会や公認大会制度をつくりあげてを歓迎する。学連は会員の過半数を占める団体である。JOA 理事会や総会で取り上げて、日本学連の意見の採用にむけて努力する。 |
| 小泉 | この大きな制度改革を今年度末 3 月までにまとめ JOA に提案したい。 |
| 田中 | また、日本のオリエンテリング界にある全日本大会や公認大会の問題をまとめ |

| | |
|----|--|
| | てほしいと、学連から JOA への要請をしたい。 |
| 小泉 | ①②③について日本学連幹事会の決定で異論はないか。また、今年度末までに全日本大会と公認大会の制度のあり方を JOA に提言する。早急な議論のため、次回の幹事会前に臨時幹事会を設けたい。 |
| 木村 | 最初の全日本大会への協力をお願いについて <ul style="list-style-type: none"> ・学生の代表者と JOA の定期的な協議を持つ。 ・大会によるトレイン「矢板日新」「矢板山田」の利用を認める。 ・「矢板日新」「矢板山田」のトレインクローズ（2017 年 6 月 18 日まで）を認める。 これについて問題はないか。 |
| 小泉 | 定期的な協議は幹事会の中で行ける人が行く形にはなる。トレインに関しては指定管理者の山川さんがすでに公表されているのでそれに従う。それで大丈夫であれば内容について、幹事会としては問題ないとしてよいか。 |
| | 幹事会全体で異議は出なかった。 |
| 海老 | 最後に、山川さんと木村さんの文章が違いすぎて混乱を招く。本件、全日本大会の改革に関しては JOA と学連との窓口を木村さんにまとめて欲しい。 |
| 木村 | 私は JOA と学連両方に肩書があり、二重の立場になっているが問題はないか。 |
| 海老 | それは山川さんも同じ立場で、混乱を防ぐためには木村さんにして欲しい。 |
| 小泉 | 同意見である。 |
| 木村 | そうします。 |
| 海老 | つまり山川さんが何かしらの文章を公開する前に、木村さんが目を通して欲しい。今回は無用の混乱を招いたと言わざるをえない。 |
| 木村 | わかりました。 |
| 小泉 | 幹事の都合等を考慮した結果、10 月 9 日の中日東海大会に合わせて臨時幹事会の開催を検討する。詳細は幹事会終了後にメールにて調整と連絡を行う。 |

4. 事務局・私書箱について

要旨

今年度から実質的に日本学連の事務局は山川記念館へ移転がされているものの、規約の変更がされていない。理事会に規約案の作成をお願いした。また、山川記念館が東京から遠いため、郵便物の宛先として不都合である。事務局長の手元に届きやすい場所を検討した。

| | |
|----|---|
| 小泉 | 事務局移転について、規約の修正案を理事会で作成すると前回幹事会で山川さんと確認しているが私には連絡がない。理事会で進展はあるか。 |
| 海老 | 聞いていない。理事会で直すということになっているのか。 |
| 小泉 | そう言っていた。 |
| 海老 | 山川に連絡し、修正する。 |
| 小泉 | 事務局郵送物を事務局長が東京で受け取るための私書箱についての検討はどうなったか。 |
| 吉澤 | 私書箱は日本学連として作れないか、私が郵便物を取りにいける場所では埋まっ ていて取れない。ある程度の郵便物が届かないと利用できないようだ。郵便物は 例年どれくらいあるのか。 |
| 小泉 | ほとんどない。加盟申請など。 |
| 吉澤 | 日本女子大学オリエンテーリングクラブの郵便受けが学生課にある。地区学連か らの加盟申請書はこの郵便受けを利用した。こうするか、郵便物の宛先を郵便局 留めに指定する方法が現在可能な対策である。 |
| 小泉 | 事務局長がすぐに取りにいける場所であれば問題ないと思う。今後も事務局長の 都合のいい方法で事務局宛の郵便物を受け取る方法を使えば良いように思うが、 固定した住所のほうがいいか。 |
| 坂野 | 問題ないと思う。日本学連のホームページには、事務局を山川記念館として、郵 便物の宛先を事務局長の希望の住所を記載すればいい。ホームページに住所を記 載しても問題ないか。 |
| 吉澤 | このような利用方法に問題がないか大学に確認を取る。確認を取って許可されな ければ郵便局留めで対応してもらおう。そもそもどんなものがどれくらい届くのか 不明である。 |
| 小泉 | 加盟申請の他には後援申請が郵送の指定である。 |
| 坂野 | 後援申請もメールだけで十分だと思う。 |
| 田中 | 賛助会員に郵送利用者が少しある。 |
| 小泉 | 賛助会員の対応が必要な以上、後援申請郵送の制度変更は必要ないのではない か。ほかにも JOA 理事会出席案内が届くことがあった。この程度で、郵便物の 量は少ないと思う。大学へ確認をお願いします。 |

5. 目安箱について

インターハイで設置した目安箱を確認した。

| | |
|----|---|
| 小泉 | 1件はさきほどの全日本大会に関する案であり、すでに述べたとおりである。もう1件は日光矢板地区のトレイン利用日程が他団体と被った場合に先着順で、断られるのはなぜかという質問があった。山川さんから回答を頂いている。 |
| 小泉 | 共同開催が可能なのか先に申請を出した方に確認を取った上で、共催が不可能な場合には後に申請を出した方を拒否するという形にしている。早めに申請して欲しい。 |
| 小泉 | 目安箱について、東大大会に設置し忘れてしまった。日本学連の後援大会には設置してもらおう。まだ定着してないため普及を促す。 |

6. 一般クラス住み分けのガイドラインについて

要旨

前年度インカレミドルの際に、一般クラス a,b の住み分けのガイドラインを作成した。インカレの円滑な運営のためにも普及をすすめる。

| | |
|----|--|
| 小泉 | 住み分けのガイドラインは次回のインカレロングについても行いたいと考えている。住み分け線引きの具体的な数字については各地区学連で設定してもらえれば大丈夫なので、普及をお願いしたい。 |
| 石山 | インカレロングについて、一般クラスは S と L となっている。これは難易度の違いなのか距離の違いなのか、L が a 相当の難易度で、S が b 相当の難易度になっているのか。 |
| 小泉 | インカレ実行委員会に確認する。 |
| 田中 | おそらく、難易度の違いがあると考えていいと思う。 |
| 小泉 | 念のため確認する。 |
| 海老 | 去年のガイドラインは今後もそのまま継続していくということか。 |
| 小泉 | そう考えている。S,L に人数が分散し、スタート時刻のバランスや競技時間の厳守によってインカレの円滑な運営の協力に貢献したいというガイドラインなので、そのように普及をお願いしたい。 |

7. 東海インカレでの事故について

要旨

6月の東海インカレにて頭部外傷事故があった。対応マニュアルを作成したため、そういった各種マニュアルや対応方法をオリエンテーリング界で共有する方法について協議した。

資料：対応マニュアル

| | |
|----|--|
| 田中 | 6月19日に静岡県で開催されたの東海インカレにて頭部外傷事故があった。筑波大の参加者が沢で滑落したらしく、記憶の錯乱があったため救急車を呼び入院。脳震盪と診断され現在は回復している。 初めての事故経験で救急車を呼ぶ判断や、対応の遅れがあったため対応マニュアルを作成した。ぜひオリエンテーリング界で共有したいのだがどのように集積して管理するか。渉外対応の集積を行うことも前回幹事会で決定したがそれも合わせて考えたい。 |
| 小泉 | 広報部でホームページに専用ページ整備して欲しい。 |
| 坂野 | ホームページには前任者の頃から整備中のままの場所や対応途中の箇所が多くある。新しい資料の掲載や小さな更新の対応はできるが、ホームページ全体の整備方法を把握できていない。資料の閲覧についてもわかりにくくなっていて申し訳ない。前任のホームページ担当者とも連絡を取って、整備していきたいと考えている。 |
| 田中 | 日本学連だけでなく、オリエンテーリング界全体での共有はできないか。 |
| 木村 | 私から JOA のホームページに掲載依頼ができる。怪我についての対応は JOA でも出しているマニュアルがある。それに合わせて掲載はできる。広く告知するためには日本学連でも JOA でも掲載していいと思う。 |
| 田中 | 運営マニュアルとも統合して、埋もれてしまわないように整備していく必要もあると思う。本件はかなり危険な事故だと思ったので、改めてオリエンテーリングが危険と隣り合わせの競技であり、事故対応が重要ということを共有したい。 |
| 瀬川 | それに関連して、地区選考会などの運営者にマニュアル等は引き継がれているのか。マニュアルのデータベースやホームページへの掲載といった方法できれいにまとめて共有できないだろうか。 |
| 小泉 | 運営者のマニュアルについては把握していない。今後調査と検討したい。 |

8. 規約改正について

要旨

選手権クラスを輩出していない大学がオフィシャルを設置できない問題については、人数は制限するものの、選手と同じ宿に **OB/OG** が宿泊できる手配をしていただく。

6 条：日学総会での規約改正の承認について、承認を要するのは地区学連連盟規約だけで、それ以外のセレクション規約や推薦規約の改正は日学総会での報告のみという改正案を作成する。

20 条：1 票の格差問題は、加盟校基準の違いも含む問題であるものの、緊迫した問題ではないため今後も意見がある場合に検討する。

地区ごとの加盟校基準の違い是正については、加盟と言える人数の根拠について議論が平行線になったため、各地区で意見をもとめる。

| | |
|----|--|
| 小泉 | 選手権クラスに出走しない大学がオフィシャルを設置できない問題について大西さんより回答を頂いている。 |
| 小泉 | 登録されたオフィシャルが他の応援に来た OBOG と違うのは選手権クラススタート地区に選手に同行できるという点だけで、問題はないと考えている。宿と一緒に泊まりたいということであれば、人数は制限するもののオフィシャルでない OBOG が宿泊できるよう手配する。 |
| 田中 | 申込時に申請するというのでいいのか。 |
| 小泉 | そうだと考えている。申込時に問い合わせ等お願いします。 |
| 小泉 | 6 条：日学総会での規約改正の承認について、20 条：1 票の格差問題、地区ごとの加盟校基準の違い是正についての 3 点について各地区学連に持ち帰って話し合ってもらったと思うが、意見を聞かせて欲しい。 |
| 瀬川 | 6 条：地区学連の決定のみで良いという意見で、日学は事後承認でも良いのではないか。または、日学幹事だけで承認を行い、総会は必要ないと考えている。 20 条：人数比重み付けする、幽霊部員は存在しているから不適切、1 人 1 票を実際に成立させるのは現実的でない、個人の意思が大きい議題には重み付け、インカレ団体には重み付けを行う、など多くの意見があった。 加盟校基準：5 人でも問題なかったのだから今後もそのままにするという意見。 10 人でも良いのではないか、5 人で議論や意見統一できるのか、インカレ団体なら少人数でも内部で議論しているのではないかという意見があった。 |
| 小泉 | インカレ団体に関して票や基準を分けるというのは条文にできないように思う。 |
| 坂野 | インカレ団体には様々な形態があるため、条件の統一は難しいと思う。 |
| 渥美 | 6 条：タイムラグがあるため、スピーディーに規約制定しても良い。幹事のみ承認や事後承認を採用しても良い。 20 条：現行のまま |

| | |
|----|---|
| | 加盟校：統一するべきではある。10人が適切かは議論があった。関東の5人以下団体はどこもインカレしているから大人数で議論しているのなら問題ないという意見もあった。 |
| 高田 | 6条20条加盟校基準についても意見はなかった。 |
| 渥美 | 6条20条加盟校基準についても意見はなかった。 |
| 横田 | 規約改正のタイムラグは問題になっていない。 20条特に意見なし。 加盟校：統一するべきではあるという意見はまとまった。10人が適切かは個人によって意見に差が大きく議論があった。 |
| 築地 | 6条：連盟規約以外は地区学連内で改正してもいいのではないか。次回日学総会で報告のみなど。 20条：賛否あった。加盟員数の多い団体に左右されるのは問題と考えているという意見。大学単位でしっかり相談しているため大学単位で票があるべきという意見。 |
| 小泉 | 地区学連の規約改正は数も増え、6条は野放しにはできないものの改正を急ぐこともないと思っている。日学総会での承認は地区学連連盟規約だけで、それ以外のセレクション規約や推薦規約の改正は日学総会の報告だけという改正案を提案したい。次の幹事会で改正案を持ってくるので議論し総会で決議したい。20条については関東関西で重み付けを考えるという意見があった。他は現行維持という意見とみられる。緊迫した問題では無いようなので、いい案があれば改正するというところでどうだろう。 |
| 瀬川 | 複雑な投票は現実的でないので、緊迫した問題ではないと思う。 |
| 小泉 | サークル単位の票だと組織票にならないか。それだとさらに話し合いが不十分になりそう。 |
| 築地 | 代理なので詳しい状況はわからない。 |
| 小泉 | 加盟校基準について疑問が出たのは関東のみ、承認による昇格については意見がないか。 |
| 坂野 | 基準の5人や10人と言った数字に意味や根拠が無いことが、議論が並行する原因ではないか。 |
| 小泉 | 関東だけ5人と少ないのは異常という他学連からの意見はある。 |
| 瀬川 | 関東は毎年準加盟校が増加している。加盟の敷居が低いのは参加しやすく関東にとって良い。関東は現在の5人で話し合いは成り立っている。少数意見を汲み取って欲しいという意味もあると思う。 |
| 築地 | 前にも言ったが、関西学連に神戸大を登録申請した時に、新入生が増えても煮詰まった議論ができるのかという意見があり加盟できなかった。人数がいれば意見が出せるというわけではない。 |

| | |
|----|--|
| 小泉 | そこで総会で承認という手順を踏むことで5人でも参加できる、といったことができるのではないか。そもそも準加盟校は加盟校になりたいのか、いろいろな意見がある。総会の承認を通せば人数が準加盟のまま、少ないけど加盟といったことができる。 |
| 瀬川 | それだと議決権を加盟費で買っているとも言えるのか。そもそも加盟校費用はなぜ差があるのか疑問がある。 |
| 横田 | 東海学連では10人も5人も影響がない。影響するのは関東だけではないか。 |
| 築地 | 関西学連は5人では少ないという解釈をしている。 |
| 吉澤 | 今年度の加盟員登録では関東学連以外で5人を満たさない大学は岡山大学のみ。 |
| 小泉 | やはり人数の根拠、団体が成り立つ根拠が必要だと思う。もともと5や10といった数字に理由はないのだと思う。人数について絞って議論を深めたい。 |
| 坂野 | 最低限で代表、副代表、会計、渉外の4人で成立すると思う。 |
| 瀬川 | 各学年に1人いる、インカレリレーを排出したら、などもあるか。 |
| 築地 | それだと少ないように感じる。でも方向としては組織力、統率力といった団体の運営力のようなものを数値化して明確にできたら良い気はする。 |
| 坂野 | 学校に団体を認められている、何か学生の統括団体に所属している、等の基準ではどうか。 |
| 築地 | それだと人数に大きな差が出てこないか。学校によっては少人数でも団体としての許可があり得る。 |
| 坂野 | 組織ってなんだ。5人で不満あるのか。 |
| 小泉 | 各地区学連で作った人数に慣れてしまっているから議論が平行してしまう。規約が改正されて大きな変化が起こるのは関東だけ。 |
| 田中 | 前提としては規約を統一したい。 |
| 小泉 | 結局根拠がなく議論は平行線。人数の根拠について各地区で持ち帰って話し合っ |
| | てほしい。 |

9. 関東ロングセレクトラブルについて

関東・北東・北信越学連合同インカレロング選考会にて渉外問題が発生し、会場となった小学校体育館を汚した件で使用禁止となってしまった。これの報告が遅れたことについて山川さんから指摘があったため再発防止の連絡系統を検討・確認した。

資料 5 体育館利用に関する報告書

資料 6 関東学連再発防止策

| | |
|----|---|
| 小泉 | <p>経緯を説明する。</p> <p>7月3日、テレインは七国峠で会場は小学校の新しく建て替えた綺麗な体育館を使用していて土足禁止飲食禁止だった。</p> <p>運営者内で会場をきれいに使う意志を共有し、張り紙を行っていた。しかし会場に入って良い箇所について運営に間違った認識があり、また猛暑で室内での飲物の摂取が多くあったなどを教頭先生が目撃し指摘した。さらに体育館奥ステージにごみが見落とされており、ごはん粒の跡の指摘も受けて今後この会場を使用禁止となった。</p> <p>実行委員会の謝罪と報告。埼玉県協会・多摩 OL への報告（ここまでの1週間）を行った。現地に行って謝罪。実行委員会から関東学連で報告書。</p> <p>これらの報告の遅さについて山川さんが激怒し OL 界で情報共有した。</p> <p>山川さんからは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渉外担当者が会場にいなかった。 ・ 報告が遅く、報告場所が悪い。 ・ 謝罪のタイミングや判断が悪い。 ・ 報告書や謝罪の告知がなかった。 <p>トラブルは生じるが、対応が悪い。日本学連として JOA に報告して欲しい。</p> <p>学生などが謝罪対応するのは危ない。少なくとも、300人以上大規模大会では年長者の判断を仰げる環境整備を。</p> <p>挙げられた。</p> |
| 小泉 | <p>この幹事会では今後こういった報告体制の整備をしていくかを考えたい。日学報告は当然行ってもらおう。渉外問題は人数が少なくても起こりうる。全ての問題について年長者に直接つなぐのは難しい。また、そういった制度を制定したとして、未来にも伝えていく恒久的な制度にしたい。</p> |
| 瀬川 | <p>そもそも責任ある立場である会長副会長理事長は誰のことか？</p> |
| 小泉 | <p>日本学連会長は河合さん、副会長は山川さん、理事はいっぱいいいて把握していない。理事長という役職があったか分からない。報告は幹事長として理事メーリスに入っているのものでそこで報告できる。</p> |
| 田中 | <p>窓口が幹事長なのは問題か、事務局経由はどうか。</p> |
| 坂野 | <p>初期対応の遅れにつながるの直接幹事長に連絡してはどうか。</p> |
| 小泉 | <p>それは窓口がなかったのが遅れた原因だったのではないか。</p> |
| 瀬川 | <p>関東学連に報告があったのは開催から5日後の7月8日にメールで頂いている。この時点では目処が付いていなかったため正式な報告は後日ということだった。</p> |
| 田中 | <p>責任の所在が不明で、実行委員会内で処理しようとして対応したのが問題だったのでは。</p> |

| | |
|----|--|
| 小泉 | 申請を行ったすべての練習会・大会について何かしらの問題が起これば地区学連から日本学連へ報告をすべきと言えるのでは。これはもちろん事務局経由となる。 |
| 瀬川 | 関東学連では問題が発生したときの報告書提出は1週間以内と定めている。 |
| 小泉 | 地区学連から日本学連事務局へ、その後に幹事長の判断で理事会に上げるということでいいか。 |
| 坂野 | 上に誰が居て、どういう判断をしているか、きちんと判断できる人がいるのか。 |
| 小泉 | 理事会の方に報告をすれば十分だと思う。今回問題を指摘されたのが報告だったのだから、理事会への報告は必要と考えている。 |
| 小泉 | 山川さんからのメールにある、ちゃんとした年長の分別ある大人とは何か、コントローラと捉えていいか。 |
| 田中 | 今回は社会人1～3年目のOBが対応して対処が不十分と言われている。 |
| 小泉 | 練習会などは無数に開かれる全てのイベントに対して徹底するのは難しい。 |
| 坂野 | 練習会規模にもそれに応じたコントローラ資格が必要になってしまう。理想的だが現実的でない。後輩の練習会を見守る上級生になってイベントアドバイスするときに読んでおきたい本（渉外対応、連絡先の大人や学連、怪我対応マニュアル）というものをJOAに作成依頼してはどうか。 |
| 瀬川 | 関東では10/29に村越さん主催のリスクマネジメント講習会がある。 |
| 小泉 | 報告の形態は事務局と幹事長を通すこと、大会であれば渉外にも詳しい大人にコントローラを頼むこと。さらに、JOAにも相談し、マニュアル作成を検討する。 |
| 瀬川 | 関東学連として、自分たちにできることを考えた。今後も飲食禁止の会場があると思うので、飲食可能スペースの設定、水分補給の可否を事前確認、会場の掃除当番制度をつくる、の対策を行うことになった。今回のように他学連との共催の際の連絡協議も行えるようにしたい。 |
| 小泉 | JOAの高村さんから、大会会場に日本オリンピック協会が進めている「環境アクション」ポスターを貼るという進言があったことを伝えておく。 |
| 坂野 | 飲食禁止について、深良でのOC大会では体育館を全面ブルーシート保護した。 |
| 小泉 | 難しいが、必要ならそこまでしないとイケない。 |

10. 後援大会申請

KOLC 大会と早大 OC 大会について後援大会申請を承認した。

| | |
|----|--|
| 吉澤 | KOLC 大会について申請があった。日程が変更したため期限が過ぎているが、1 回目の申請は期日までにあった。 |
| 坂野 | 今回に限らない近年の傾向として申請期限が厳密に守られていないように感じる。 |
| 小泉 | 6 ヶ月前の提出をお願いします。 |
| | 全会一致で承認 |
| 吉澤 | OC 大会について申請があった。 |
| | 全会一致で承認 |
| 小泉 | 後援大会は会場に目安箱の設置と、終了後に渉外報告書の提出をお願いします。 |

11. 各部局活動報告

| | |
|----|---|
| 会計 | 金庫に誤差がないか確認したところ黒字 79 円の誤差があった。今後は加盟金の支払いを受け付けていく。 また、事務局移転に伴ってみずほ銀行とゆうちょ銀行に登録されていた住所を変更した。郵便振替口座の住所も変更した。 |
| 事業 | 今回の幹事会の宿と会場を予約した。 |
| 広報 | 第 1 回幹事会議事録を公開した。いぶき 1 号を公開した。記事作成の協力ありがとうございます。議事録の文字起こし自体は 2 週間でできてメールで送付していたので、誤字脱字等の添削と資料データの提供をお願いしたい。 |
| 事務 | 加盟登録が終わった。各地区学連事務局長に加盟費のお知らせを送付した。事後報告になったが、8 月には私が日本にいなかったため事務局長前任の新粥さんにしばらく代理をお願いした。 |
| 普及 | 観戦ガイドを作成していく。秋インカレまでに報告書を完成させたいが山川さんから返信がなく困っている。あと村瀬さんからも。催促をする。 |
| 渉外 | 山川さんと渉外部長前任の橋場さんとで矢板日光の渉外を行った。地区ごとに回覧を送付した。 |

12. 地区学連活動報告

| | |
|-----|---|
| 北東 | 8/13 スプリントセレと第2回幹事会、学連誌を発行、第2回ロングセレを行った。 今後は関東との合同ミドルセレ、第3回総会を開催する。 |
| 北信越 | 7/3 関東との合同ロングセレ、東大大会で第2回ロングセレ 新潟金沢交流を行った。 CC7で総会と交流会を行う。 |
| 関東 | 7/3 ロングセレ、7/19 体育館に関する謝罪の涉外、7/16 第2回総会、8/13 スプリントセレ、明日臨時総会と明後日新人戦を行う。 今後は10/29に第3回総会、12/28 ミドルセレを所野で開催、12/23にJOA コースプランとリスクマネジメント講習会が開催される。 |
| 東海 | 6/12 スプリントセレ、6/19 ロングセレ、8/20-21 学連合宿と総会を開催した。 今後は12/11 ミドルセレ、17-18 学連冬合宿と第2回総会を行う。 |
| 関西 | 6/19 ロングセレと第2回総会、7/3 スプリントセレを行った。 今後は11/11-12 中九四合同の練習、10/8-9 中九四合同の練習を行う。 |
| 小泉 | 地区学連幹事長の皆さんには <ul style="list-style-type: none"> ・ 35周年記念事業の企画募集 ・ 全日本大会の件について基本的に案を受け入れるが、初年度エリートを拒否したことについての意見、公認大会や制度の基準を組み立てについて議論する。 ・ 6条の規約改正は日学総会で報告のみの方針、加盟校基準人数について議論 ・ 涉外問題について議論 以上について持ち帰って意見をまとめてきて欲しい。 |

13. 次回幹事会について

| | |
|----|--|
| 小泉 | 臨時幹事会：10月9日（日曜日）中日東海大会終了後 次回幹事会：1月28日（土曜日）筑波大大会前日 |
|----|--|